

教育特集

教育現場の現状と将来

- ①設立年月日
- ②卒業生数、在校生数
- ③カリキュラム
- ④教育方針
- ⑤この1年間の自校の変化
- ⑥昨年度就職状況、今年度就職展望
- ⑦今後の教育展望

多様性によって働き方から学ぶスタイルにまで、様々な変化が起きている。消費者意識も大きく変わり、なにより「正解」で、なにより「基本」なかも判断が付きにくい。

溢れる情報を判断できる知識や学びが必要だが、学前に簡単に儲けられる社会において、学びたくなる魅力あふれる業界でなければ、次世代の若者はそこに希望を抱かない。

モノが溢れてはいるが、気に入ったものが見つからない。技術が高くて消費者が選択しなければ、市場は発展していかない。

厳しくなればなるほど即戦力につながる教育が求められる。特に専門知識の多い業界では、専門教育期間の果たす役割は大きい。業界人による継続した学びも必要になってきている。

業界関連の教育機関に現在の状況、変化への対応、そして今後の見通しを聞いた。

「眼鏡作製技能士」はじまる
申込締切は2022年2月28日
2022年4月20日に8都市で学科試験

眼鏡作製において、顧客の眼鏡の使用状況・使用目的を聞き取ると共に、視力の測定、レンズ・フレームの販売、加工前作業、レンズ発注・加工、フィッティング、引き渡し、アフターケアを行う眼鏡作製の総合エキスパートとなる「眼鏡作製技能士」の国家検定資格制度の実施が、開始され、技能検定に合格すると『技能士』として名乗れるようになる。



者協会が実施する技能検定試験の運用に対し、全面的にサポートするとともに、推進機構が行ってまいりました、各種作業を同技術者協会に移行するように努めて参ります。推進機構としては、新しい資格制度が、眼鏡業界の健全な

発展に貢献できるよう、関係団体(組織)との協調体制を取りながら、最後まで最大限の努力をもって、活動に取り組んでいきます。主な活動としては、推進機構は2022年9月30日をもって解散しますが、「眼鏡作製技能士」の第1期誕生まで見届けます。眼鏡業界全体の活性化に貢献できるように積極的に努力します。技術者協会が行う情報提供や啓発活動、およびPR活動に協力します。」などと話している。

学科試験は
2022年4月20日に
8都市で実施予定

導入された国家検定資格「眼鏡作製職種」は、多くの歳月を掛けて誕生した検定制度であり、多様化・高度化する顧客のニーズに伴い、「適切な診断・治療」と「適切な眼鏡作製」の双方の実現に向けて、眼鏡技術者が眼科専門医と連携しつつ、国民により良い眼鏡を提供し、目の健康を守るよう、眼鏡作製の技能を高めていくことを目的とし、眼科専門医との連携を含め、眼鏡を必要とする顧客が視力補正用眼鏡等を選択し購入する際に、眼鏡店において行われる、視力の測定、レンズ加工、フレームのフィッティング等の業務について検定を実施するもの。職業能力開発促進法 第47条第1項の規定に基づき、技能検定職種のひとつとして、令和3年8月13日に(公社)日本眼鏡技術者協会が厚生労働大臣から眼鏡作製職種の指定試験機関となることを受け、試験業務を実施することになった。

これまで眼鏡作製技能検定の実現に向け活動してきた眼鏡技術者国家資格推進機構の岡本育三代表幹事は、11月の通常総会の中で、「生活者の眼鏡店・眼鏡技術者選びに役立つ国家検定『眼鏡作製技能士』が誕生するわけですから、眼鏡技術者はこの制度を大いに活用し、眼科専門医と連携を図りながら、生活者から喜ばれる眼鏡技術者になっていただきたい。これまでの10年間に及んだ推進機構の活動を支えてくださった皆様に感謝します。また、新しい資格制度のもと、指定試験機関の(公社)日本眼鏡技術

11月10日頃には、眼鏡作製技能検定の公式ホームページが公開され、試験内容、試験科目・範囲・細目、試験日程などについて説明している。検定試験は、学科試験と実技試験で実施され、両方の試験に合格すると「眼鏡作製技能士」の称号が付与されることとなる。等級は1級、2級の2つからなる。

学科試験は2022年4月20日午後、札幌・仙台・東京・名古屋・鯖江・大阪・岡山・福岡の8都市(会場)で実施される予定。申込は2022年2月28日まで。

実技試験(学科試験合格者対象)は、7月25日～8月25日を予定しており、会場は札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・岡山・福岡の7都市(会場)となり、申込期間は2022年6月1日～30日までを予定している。

学科試験は1科目。合格判定基準は満点の70%以上。

東京眼鏡専門学校

実践的な眼鏡技術者を養成



①昭和43年4月。平成12年に日本眼鏡専門学校と早稲田眼鏡専門学校が合併して開校。平成16年に校名を東京眼鏡専門学校に変更。

②卒業生6641人(全日制4083人、通信教育2490人、ケチャム通信68人)。在校生372人。

③英会話、心理学、人体のしくみ、光学入門、光サイエンス、眼鏡光学、光学機器、眼科学、薬理学、眼のしくみ、屈折測定論、両目視機能検査、眼鏡製作・調整、フィッティング実習、コンタクトレンズ、流通論概論、眼鏡店経営、眼鏡店マネジメント、メガネとファッション、カラーコーディネート、人間工学、プロダクトデザインの基礎、手作りメガネ工房、学内実習、学外実習など。

④実践的な眼鏡技術者・眼鏡店経営能力者の育成と人格面での形成を目指す。

▽3年制カリキュラムと少人数制の授業▽外部の眼鏡店等でのインターン制度により、実践力を強化▽クラスアドバイザーによるきめ細やかな勉強・生活指導▽ガイダンスや企業研究など万全の就職指導。

⑤2020年度より通信教育において、ビデオ受講を多数取り入れ、従来のスクーリングと併用して、より受講しやすい形をとった。

⑥2020年度の就職率は100%となった。

2021年度は昨年に続き前半に新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き厳しい状況が続いている。

⑦専門学校卒業生の強みである実践力を増強し、即戦力の眼鏡技術者を養成したい。

▽学生の教育水準を引き上げ、実践的な技術者を輩出する▽国家検定資格「眼鏡作製技能士」の取得を目的とする教育を目指している。

実技試験(1級・2級共通)視力の測定、フィッティング、レンズ加工の実技試験。作業と評価内容は、眼鏡の接客、販売において、お客様の要望を把握し、正確な視力の測定により完全補正値を求め、レンズとフレームを適切に組み合わせ、一人ひとりの顔に快適にフィットさせるための知識と技能について評価する。

求められる水準

求められる水準としては、1級は「後進の目標となる眼鏡作製技能士」とさ

れ、トレンドを把握し、顧客の潜在的ニーズを汲み取り、最新の技術で製造されたレンズ、フレームを活用し、顧客に最適な眼鏡を提案でき、必要な詳細な知識・技能のみならず、眼鏡作製従事者の指導や育成が可能などとしている。

2級は「業界のベースとなる眼鏡作製技能士」とされ、顧客ニーズを汲み取り、適切な眼鏡の提案ができ、必要な概略の知識・技能を身につけ、顧客ニーズに応じた眼鏡を作製することができ、必要な概略の知識・技能を身につけ、顧客ニーズに応じられるなどとなっている。

標準テキストを販売

眼鏡技能検定試験標準テキスト「眼鏡学教本～眼鏡作製技能士を目指して～」も完成している。販売元は眼鏡光学出版(株)。価格は4400円(税込、送料別)。注文は電話(03-5818-1871)又は販売元ホームページ(https://gankyobooks-stores.jp/)より。

キクチ眼鏡専門学校

世界的レベルでの教育システム

①昭和53年4月
②卒業生1698人(全日制)、在校生200人(通信教育生含む)

③▽視覚のスペシャリストの育成を目指すカリキュラム▽専門知識と技術の総まとめのカリキュラム編成で、基礎から専門までの総合力を確実に身につける。

基礎科目は英語、数学、生物学、保健体育学、英会話、心理学。専門科目は光学系、眼鏡学系、医学系、視科学系で構成。

④教育基本法と学校教育法に基づき、国際視力検眼連盟の定める国際基準に添ったカリキュラムで、一般教養のうえに専門的学問を探究し、人々の視力と視覚機能を保護育成することに献身する専門の技術者(オプトメトリスト)を養成することを目的としている。

⑤スペシャルクリニックの反響が高い。スポーツビジョンセンターでは地元の高校野球選手をはじめ、各種スポーツ選手の測定およびトレーニングのアドバイザーを行なっている。地元の高校では、総合科目としてスポーツビジョンの啓蒙を前出授業している。



⑥2020年度は、希望者はほぼ全員に添ったカリキュラムで、一般教養のうえに専門的学問を探究し、人々の視力と視覚機能を保護育成することに献身する専門の技術者(オプトメトリスト)を養成することを目的としている。

⑦専門科目の充実を図り、世界的なレベルのビジョンケアに必要となる教育システムの確立に努力していく必要がある。



目指す資格は「眼鏡作製技能士」! 国家検定資格

【眼鏡技術者への第一歩は全日制で】
●第一眼鏡学科(高校卒)=3年制
●第二眼鏡学科(短大・大卒)=2年制

【社員のレベルアップは通信教育で】
春コース(4月開講)=2年制
秋コース(10月開講)=2年制

学生募集集中!

学校法人 東京眼鏡学園(東京都認可専修学校)
東京眼鏡専門学校

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-26-10
TEL.(03)3360-7046 FAX.(03)3360-7143
http://www.toc.ac.jp

教育機関名	教育部門責任者
本校・所在地	電話番号
日本宝飾クラフト学院 東京都台東区台東3-13-10	大場 よう子 03-3835-3388
真珠科学研究所 東京都台東区上野3-20-8	小松 博 03-3834-7050
中央宝石研究所 東京都台東区上野5-15-14ミヤギビル5階	吉澤 博幸 03-3837-0855
ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 東京都渋谷区神宮前5-29-2	水野 倫理 03-3499-0300
日本ジュエリーアカデミー 東京都品川区上大崎3-14-34プラスワンビル2階	鈴木 竜樹 03-5447-0039
アテナ宝石デザイン研究所 東京都新宿区高田馬場2-14-2ハラダビルディング1001号	水野 薫子 03-3208-0545
山梨県立宝石美術専門学校 山梨県甲府市丸の内1-16-20コロシアム7・8階	飯野 一朗 055-232-6671
キクチ眼鏡専門学校 名古屋市東区東2-5-5	伊藤 克也 052-932-2858
東京眼鏡専門学校 東京都新宿区百人町2-26-10	魚里 博 03-3360-7046
ワールドオプティカルカレッジ 岡山県岡山市平井6-6-11	086-272-5566